

# 関東大震災体験記

中村元義



大正十二年九月一日午前十一時五十八分三十五秒、突如として激動が起つた。私と同僚佐野寿夫君は當時鈴木商店東京支店（新館一階）に席を並べて居り其の時食堂で中食を済まし自分達の机に帰つたその瞬間の出来事であつた。物凄い地鳴りを伴う激動！自分の周囲のこと何も考へる余裕などなく強いバネに弾かれたように扉を

蹴つて外へ飛び出した佐野君はどうだつたか恐らく私の後か、又殆んど同時に事務所から飛び出したであろう、何も考へる余裕は無かつた私達の他には主任池上武頤氏下坂八郎氏、石谷金治郎氏、渡辺正富氏他に五六人、その内下坂八郎氏は直ぐ横の大金庫に上体だけを突込んで下半身を外に出して防禦の姿勢これだけが私の眼底に一瞬飛び込んで来た。外へ出ると小さな堀川があり小さな橋名附けて思案橋その欄干をつかまえて佐野君と断続的に繰返す激動の成行を見守つていたまさに恐怖のドン底また瞬間であった。

その間、他の社員はどうか本館の方はどうか私は平常本館と殆んど交渉がなく其の成行を知る余裕がなかつたが、唯伊藤秀一君が本館の屋根に上つて半壊の事務所から書類を取り出そうとするのを窪田支店長が危ないから止めさせ止めして居るのが脳裏に残つているだけ。

其のうち誰かの指図で専属の八

幡屋回漕店から百屯舡を川岸に着けさせ皆狭い道路に居るよりはとにかく飛び乗つたものは女子社員を主として二十人か然しやがて津波を思わせる高汐がひたひたと岸辺を洗うようになり、その上日本橋の下手の鎧橋は修理中で多数の足場丸太を組んでいたがその河下

から空解の何隻かが上り汐の勢いでぶつかり丸太をばりばりとぶち破り八幡屋の舡へぶつかりそ

になつたのでこれを避けようと必死の作業、又これを見て女子社員は悲鳴を上げるようになつた。そんな状態で此處を早く離れて家持ちは家路へ、我々は寮へ引揚げるのが最善と思うようになり先刻からそれを主張した佐野君と二人で思案橋上最後の思案に決着をつけ

近くの日本橋発京橋銀座新橋の本通りを西へ一直線、浜松町田町品川省線各駅に並行する本通りを只走りに走つて大井町から荻窪の我等の寮へ帰りました。然し寮でも余震の連続で安閑と休息することは出来ず寮生同志唯不安の表情で第一夜を過した。翌二日本館の松田大介君が三人の女子社員を護り帰つて来た。又計理部の山下政治君も数人を皇居前で一泊又二泊

ここでは省略します。

備、茲で私の記述は一応打切りまして此の四日に思い掛けない仕事が突然し留守役佐野君に御苦労をさせましたので其の概略を同君に聞きましよう。猶その前に関東の列車で命懸けで乗りました

此時は罹災民が殺到し死にも狂いで思い出多い旅行でしたが、

主任と私は支店長の命により東京の情況を報告すべく東京田端駅から乗車（これは東京からの第二番

目）の列車で命懸けで乗りました

大震災総勘定を御披露しましよう。

一、震源地相模湾

二、震源の深さ二十キロ

三、余震の回数初発以後十日間千百九十七

四、震域三千平方哩

五、死者東京七万四百九十七人横浜二万六千六百二十三人

六、家屋喪失東京四〇七、九〇〇、横浜七八、六四六、家財喪失東京三六億六千二百万円、横浜九億四百万円

前、私横浜から東京へ転任の後を受けて働き且つ非常なる勉強家である未来有望なる青年でしたのに無惨なる夜半の嵐と散り果て、今日迄も時々思い出される訳であります。此の機会に心から御冥福を祈ります。

次に東京の寮は一時食料不足を来たし、上司の命令で近在を手別けし買い出しをしましたが、松田君の米一俵、佐野君の鶏一羽をかついで帰つて来た等、震災余話として語りつがれて居ります。

（元東京支店勤務）終

中村は神戸へ行き不在となり、その途端に内務省から通達があり、鈴木商店申出での輸入木材五〇万B・Mを直ちに引渡しするよう指令があり即日係官を差向けられることとなりました。そして十時頃内務省係官（氏名記憶せず）公用車にて到着、私が同乗して永代橋下流の月島貯木場へ参りました。現場にはイゲタニ回漕店員五名程参加して直ちに寸検を始めました約五時間を要し全部終了しましたが、其の際筏の上に異様なものを見ました。少し近寄つて見るとなんと人間の死体で、始め一体丈

見付けましたが段々見渡すと凡そ十体程、成るべく遠くからながめて居りましたが進むにつれ段々近付かざるを得ず、近付けば折柄の暑熱に腐爛悪臭をはなち思わず顔を覆い筏人夫の手をかりて漸く検量を進め、午後四時頃終了致しました。只一瞬黙祷を捧げつつ現場を引揚げました。

イゲタニの店にて必要な事務的処理を終り、私は丸の内東京駅内ステーションホテルで御客さんにて御附合願いライスカレーを食べましたが今迄の空腹と疲れが一度に元気になり、其の時のカレーの味

その後未だに二度と出会つた事がないません。（以上佐野君の話）

最後に横浜支店の状況を附記。震災自体の激しさは遙かに陵駕支店では怪我人數人と死者一人其の一人は同店輸入部の中川清俊君です。中食後程近い伊勢崎町の書店有隣堂の二階で同僚片山秀吉君と喫茶中第一震の初動で倒解し、片山君は一瞬の間に逃げ出しが、中川君は身体の一部を柱に挟まれ助けを懸命に求めるが片山君一人にては如何とも力及ばず隣家から火の手に追われ中川君は無惨の横死を遂げたのです。同君二年程

土地管理

東神興業株式会社

社長 鈴木治雄

神戸市生田区京町72 クレセントビル内  
TEL 078-331-3281

自動車用各種ホース・高圧及び超高压ホース・ライニング・エキスパンションジョイント・塗料・ナイロンコーティング



日輪ゴム工業株式会社

取締役会長 鈴木治雄  
取締役社長 横田周作

本社 神戸市生田区江戸町98 江戸町ビル3階  
TEL 078-392-1471  
工場支店 姫路厚木 東京

ケミカルタンカー

國華産業株式会社

取締役社長 大久保延造

本社 大阪市北区堂島浜通1丁目63番地  
TEL (06) 344-5626 (代)  
東京事務所 東京都港区芝西久保桜川町28番地  
TEL (03) 504-2606